

防衛医科大学校並木祭の参加者から嬉しい感想

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山一空尉）は、10月29日（土）、30日（日）に防衛医科大学校（埼玉県所沢市）で行われた『並木祭』に参加した高校生より嬉しい報告を受けた。当事務所は、防衛医科大学校の志願者が神奈川地本の中でも断トツに多く、高校1年生時から防衛医科大学校の入学を目標としてくれる学生たちを多数抱えている。事前登録制となった今年度の『並木祭』には、学年を問わず30件の申し込みがあった。

『並木祭』訪問の報告をくれた高校2年生の女子学生は、コロナ禍により参加を希望していたオープンキャンパスや学園祭が相次いで中止となり、学校見学をする機会に恵まれず、ようやく開催に至った今年度の防衛医科大学校の『並木祭』訪問が実現した。女子高校生からのメールには「日曜日に防衛医科大学校の並木祭に行ってきました。学生の方々の行う屋台が出ていたり、医学部生の方の住んでいらつしやるお部屋を見られたり、校舎の中を歩くことができたりしました。寮の部屋が考えていたものよりも広くて過ごしやすそうだなと思いました。（原文まま）」と学校訪問ができた喜びが感じられた。また、「念願の防衛医科大学校を訪れることができ、感激でした。来年の受験に向け、更に頑張っていこうと思います。（原文まま）」と前向きな言葉もあった。その他の訪問者からも「一般大学と変わらない賑やかさでした」「医大生と話す機会があつて嬉しかったです」と担当広報官に連絡があり、モチベーションアップにつながる素晴らしい機会となった。

市ヶ尾募集案内所は「コロナ禍に負けず頑張っている受験希望者たちを応援できた機会であり、防衛医科大学校の受験意志を高めてくれた学生たちからの嬉しい報告だった。引き続き、イベント等を活用し志願者獲得につなげていきたい」としている。



防衛医科大学校並木祭会場入口にて記念撮影

総合的な探究の時間を支援して

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻一陸尉）は11月1日（火）、第4施設群の支援を受け、高校生に対する『総合的な探究の時間』を支援した。これは、9月1日に実施された防災講話に引き続き、実際に生徒達にサバイバル（自衛隊のライフハック）体験をさせ災害時に何が出来るかを体験し、考える事を目的として、校長先生から要望を受け実現したものである。

当日は、校長先生と担当教諭及び20名の生徒が座間駐屯地で、第4施設群から全般説明を受けた後、4



コグループにわかれてロープワーク、6人用天幕設置、浄水及び野外衛生救急法を体験、体験喫食を挟んで午後から施設器材の研修、体験搭乗及び駐屯地史料館を見学し、陸上自衛隊に対する関心と理解を深めた。

校長先生からは「毎年このような充実したサバイバル体験をさせたい」、生徒からは「自衛隊の生活を体験してみたい」と感想があり自衛隊に興味を持たれたようだった。

相模原地域事務所は「今後も、学校との連携を密にしながら自衛隊の活動を積極的にアピールしていきたい」としている。